

みんなでつながる わ！



今年度、最初の国語科の研究授業を3年2組で行いました。本単元では、「自分が選んだこまの魅力を伝えられるように、こまのつくりや回る様子などに着目して紹介文を書く」という単元ゴールを設定していました。

問いと答えを把握し、自分の伝えたい文章とこまの様子がつながっているかなど、仲間との対話を通して自分の課題を再考していく学習でした。本時の授業と事後協議の様子をまとめています。各回の校内研究が単発で終わるのではなく、成果を積み重ねていくことができるよう、学んだことを生かしていきましょう。

単元名 『こまの魅力を紹介する文を考えよう』全8時間

教材名 「文様／こまを楽しむ」(光村図書／3年上)

本時の目標：文の構成に着目し、友だちの文章に対し自分の考えを伝えることができる。

【授業者・学年より】

今回の文章は、構成メモも含め、あまり助言することなく子ども自身の力で書いたものである。なお、事前の模擬授業から4つの変更点がある。

- 1：こまの特徴が捉えにくいと感じたので、こまの種類を変更した。
- 2：ワークシートを用いて構成を考えさせた。
- 3：線（グッドライン もっとライン）を本時で引く予定だったが、話し合いを充実させるため、前時にその線を書いた。
- 4：ふりかえりについて、1組ではなかなかでてこなかったなので、この授業では項目を狭め、着眼しやすいようにした。



協議の柱に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(一部抜粋)

①目的に合わせて語句を選び、文章を考えることができていたか。

- ・どの児童もよく書けているが、話し合いの場面で説明するとなると、理由づけができていないなど、難しい児童もいた。
- ・グッドライン（赤線）・もっとライン（青線）の言葉の表現がよかった。
- ・線を引いていても時間が経つと、なぜ引いたのかわからなくなっている児童もいたので、赤線、青線、それぞれ時間を取り、線を引いてすぐに話し合ってみてはどうかと思った。
- ・絵を上を描き、下にそれを説明する文を書く。絵ごとに担当を決め、共同作業をさせるのもよい。話し合いも深めることができるのではないかと思われる。

②相手の話を聞き、それに対して自分の考えを伝えることができていたか。

- ・もっとライン（青線）の部分について、「これはどう？」と言い換えまで出来るとよい。そのためには語彙力も必要だと思う。
- ・何を目的としているか、どんなポイントがよいのか、明確にできればもっとよかった。

講師の先生より(本単元・本時の学びのポイント)

○今日の子どもたちのグッドライン

1. 子どもたちは教科書で学んだ説明の仕方を、自分の表現に活かして文章を書いていた。
2. 子どもたちが身を乗り出して、交流ができていた。言葉でつながる授業づくり(言葉が真ん中に)ができていた。
3. 相手の文のよさを見つけて、相手の文章を詳しくしていこうとしていたのではないか。

○講話

1. 意欲的な学びに導く言語活動の設定

「この授業でどんな力をつけたいのか」を明確にもつ。そして、その力をつけるための、子どもたちが意欲的に学ぼうとする言語活動を設定する。

2. 子どもが目的や必然性を持って学んでいく「学びの過程」

これまで遊んだ→楽しさを見つけた→誰かに伝えたい→どうやって伝えたら・・・→手本となる文章(本文)が使える！ ⇒次の学びへの意欲へ

学びの必然性

3. 指導計画のポイント(学習者主体の計画を立てること)

- ・学習計画を立て、見通しをもたせる。
初めに付けたい力を明確にし、それを子どもたちと共有しておく。
- ・文章を構造的に読む。最初から順番に読むのではなく、全体を読むことを大切にしていく。
- ・指導者のモデルを示す。子どもたちに求めている文章を、指導者が具体的に持つようにする。
- ・表現する時、タブレットを使う or 原稿用紙に書くなど、ツールや学び方を選ぶことができると、個別最適な学びにもなる。

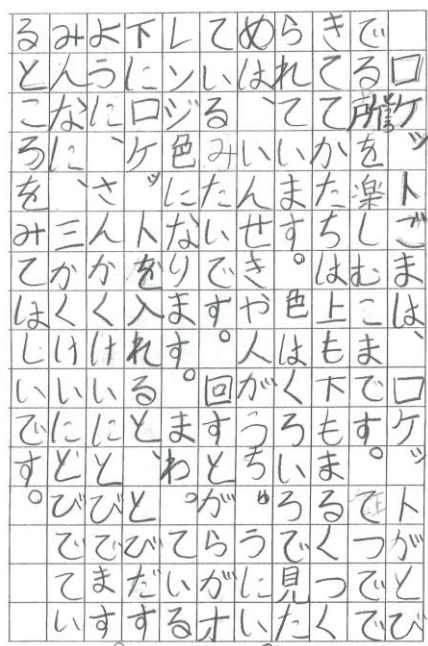
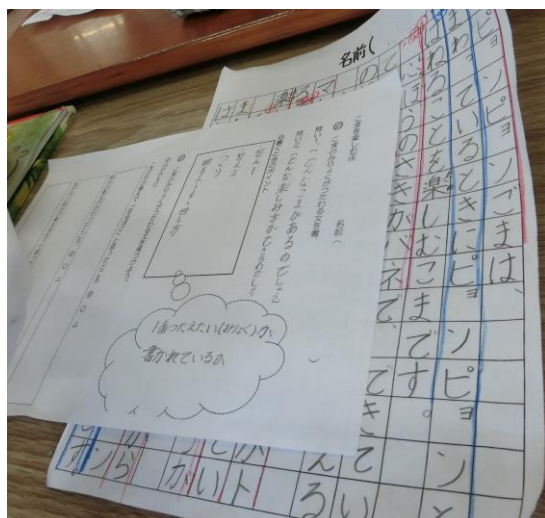
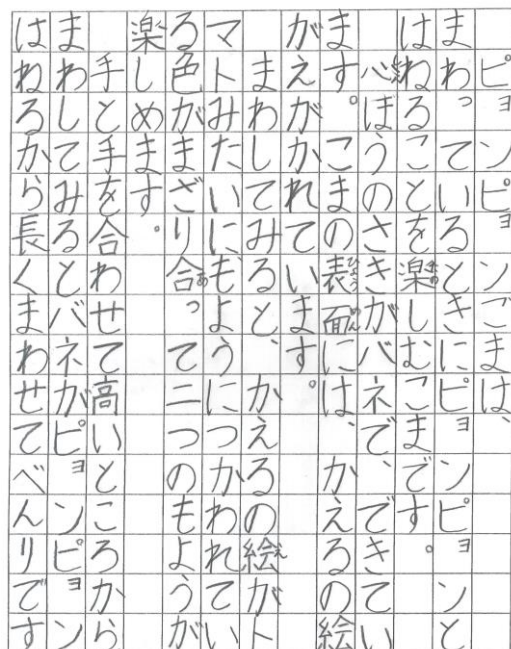
4. 言葉をもとに考えさせ、考えと考えがつながりあう学習の実現

- ①根拠や理由づけをしながら、自ら考えて言葉にすること。
- ②考えた言葉をもとに「きき合い」「伝え合う」活動をする。
- ③仲間と自分の考えとを比較したり、共通点・相違点を見つかったり、分類したりする。

さらに思考が広がり
深められる。

できあがった作品

一まず落とすところに①②…と番号をうち、文章ができたら、うった番号を消すと…段落の出来上がり！！指導の工夫が見られました。



～今回の研究のもっとライン～

子どもたちはこまの特徴を捉え、それぞれ独自の表現で文章を構成することができました。

本学習のもっとラインをひくとすれば、「つけたい力が何なのか」を指導者が明確に持ち、子どもたちと共有できていたかというところだと思われます。共有することで、子どもたちが観点を意識して話し合い活動を進められ、より活発に交流できたのではないのでしょうか。つけたい力やめあてをもつ重要性、また子どもたちと共有する大切さを感じました。

本校教員の授業力向上につなげられるように、これからも努力していきます。3年生の先生方、ありがとうございました。

校内研究担当者より